

ピリピ人への手紙

第一章

一 キリスト・イエスの僕たち、パウロとテモテから、ピリピにいる、キリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、ならびに監督たちと執事たちへ。
二 わたしたちの父なる神と主イエス・キリストから、恵みと平安とが、あなたがたにあるように。

三 わたしはあなたがたを思うたびごとに、わたしの神に感謝し、四 あなたがた一同のために祈るとき、いつも喜びをもって祈り、五 あなたがたが最初の日から今日に至るまで、福音にあずかっていることを感謝している。
六 そして、あなたがたのうちに良いわざを始められたかたが、キリスト・イエスの日までにそれを完成して下さるにちがいないと、確信している。七 わたしが、あなたがた一同のために、そう考えるのは当然である。それは、わたしが獄に捕われている時にも、福音を弁明し立証する時にも、あなたがたをみな、共に恵みにあずかる者として、わたしの心に深く留めているからである。八 わたしがキリスト・イエスの熱愛をもって、どんなに深くあなたがた一同を思っていることか、それを証明して下さるかたは神である。九 わたしはこう祈る。あなたがたの愛が、深い知識において、するどい感覚において、いよ

いよ増し加わり、一〇それによって、あなたがたが、何が重要であるかを判別することができ、キリストの日に備えて、純真で責められるところのないものとなり、二 イエス・キリストによる義の実に満たされて、神の栄光とほまれとをあらわすに至るように。

三 さて、兄弟たちよ。わたしの身に起った事が、むしろ福音の前進に役立つようになったことを、あなたがたに知ってもらいたい。三すなわち、わたしが獄に捕われているのはキリストのためであることが、兵営全体にもそのほかのすべての人々にも明らかに、四 そして兄弟たちのうち多くの者は、わたしの入獄によって主にある確信を得、恐れることなく、ますます勇敢に、神の言を語るようになった。五 一方では、ねたみや闘争心からキリストを宣べ伝える者がおり、他方では善意からそうする者がいる。六 後者は、わたしが福音を弁明するため立てられていることを知り、愛の心でキリストを伝え、七 前者は、わたしの入獄の苦しみにも更に患難を加えようと思つて、純真な心からではなく、党派心からそうしている。

八 すると、どうなのか。見えからであるにしても、真実からであるにしても、要するに、伝えられているのはキリストなのだから、わたしはそれを喜んでゐるし、また喜ぶであらう。九 なぜなら、あなたがたの祈と、イエス・キリストの霊の助けとによって、この事がついには、

わたしの救となることを知っているからである。二〇そこで、わたしが切実な思いで待ち望むことは、わたしが、どんなことがあっても恥じることなく、かえって、いつものように今も、大胆に語ることによって、生きるにも死ぬにも、わたしの身によってキリストがあがめられることである。二一わたしにとつては、生きることはキリストであり、死ぬことは益である。二二しかし、肉体において生きていることが、わたしにとつては実り多い働きになるのだとすれば、どちらを選んだらよいか、わたしにはわからない。二三わたしは、これら二つのものの間に板ばさみになっている。わたしの願いを言えば、この世を去ってキリストと共にいることであり、実は、その方ははるかに望ましい。二四しかし、肉体にとどまっていることは、あなたがたのために、さらに必要である。二五こう確信しているので、わたしは生きながらえて、あなたがた一同のところにとどまり、あなたがたの信仰を進ませ、その喜びを得させようと思う。二六そうなれば、わたしが再びあなたがたのところに行くので、あなたがたはわたしによってキリスト・イエスにある誇を増すことになる。

二七ただ、あなたがたはキリストの福音にふさわしく生活しなさい。そして、わたしが行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、あなたがたが一つの霊によって堅く立ち、一つ心になって福音の信仰のために

力を合わせて戦い、二八かつ、何事についても、敵対する者どもにろうばいさせられない様子で、聞かせてほしい。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救のしるしであつて、それは神から来るのである。二九あなたがたはキリストのために、ただ彼を信じてのことだけではなく、彼のために苦しむことをも賜わっている。三〇あなたがたは、さきにわたしについて見、今またわたしについて聞いているのと同じ苦闘を、続けているのである。

第二章

一そこで、あなたがたに、キリストによる勧め、愛の励まし、御霊の交わり、熱愛とあわれみとが、いくらかでもあるなら、二どうか同じ思いとなり、同じ愛の心を持ち、心を合わせ、一つ思いになって、わたしの喜びを満たしてほしい。三何事も党派心や虚栄からするのでなく、へりくだった心をもって互に人を自分よりすぐれた者としなさい。四おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。五キリスト・イエスにあつていていていいるのと同じ思いを、あなたがたの間でも互に生かしなさい。六キリストは、神のかたちであられたが、神と等しくあることを固守すべき事とは思わず、七かえって、おのれをむなしうして僕のかたちをとり、人間の姿になられた。その有様は人と異ならず、八おのれを低くして、死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順であられた。九それゆえに、神は彼

を高く引き上げ、すべての名にまさる名を彼に賜わった。^{一〇}それは、イエスの御名によって、天上のもの、地上のもの、地下のものなど、あらゆるものがひざをかかめ、^{一一}また、あらゆる舌が、「イエス・キリストは主である」と告白して、栄光を父なる神に帰するためである。

^{一二}わたしの愛する者たちよ。そういうわけだから、あなたがたがいつも従順であつたように、わたしと一緒にいる時だけでなく、いよいよ今は、いつそう従順でいて、恐れおののいて自分の救の達成に努めなさい。^{一三}あなたがたのうちに働きかけて、その願いを起させ、かつ実現に至らせるのは神であつて、それは神のよしとされるところだからである。^{一四}すべてのことを、つぶやかず疑わないでしなさい。^{一五}それは、あなたがたが責められるところのない純真な者となり、曲つた邪悪な時代のただ中にある、傷のない神の子となるためである。あなたがたは、いのちの言葉を堅く持つて、彼らの間で星のようにこの世に輝いている。^{一六}このようにして、キリストの日に、わたしは自分の走つたことがむだでなく、労したことにもむだではなかったと誇ることができる。^{一七}そして、たとい、あなたがたの信仰の供え物をささげる祭壇に、わたしの血をそぐことがあつても、わたしは喜ぼう。あなたがた一同と共に喜ぼう。^{一八}同じように、あなたがたも喜ばなさい。わたしと共に喜ばなさい。

^{一九}さて、わたしは、まもなくテモテをあなたがたのと

ころに送りたいと、主イエスにあつて願っている。それは、あなたがたの様子を知つて、わたしも力づけられたいからである。^{二〇}テモテのような心で、親身になつてあなたがたのことを心配している者は、ほかにひとりもない。^{二一}三人はみな、自分のことを求めるだけで、キリスト・イエスのことは求めていない。^{二二}しかし、テモテの錬達ぶりは、あなたがたの知っているとおりである。すなわち、子が父に対するようにして、わたしと一緒に福音に仕えてきたのである。^{二三}そこで、この人を、わたしの成行きがわかりしだい、すぐにでも、そちらへ送りたいと願っている。^{二四}わたし自身もまもなく行けるものと、主にあつて確信している。^{二五}しかし、さしあたり、わたしの同労者で戦友である兄弟、また、あなたがたの使者としてわたしの窮乏を補つてくれたエバフロデトを、あなたがたのもとに送り返すことが必要だと思つている。^{二六}彼は、あなたがた一同にしきりに会いたがつてゐるからである。その上、自分の病気のことがあなたがたに聞えたので、彼は心苦しく思つている。^{二七}彼は実に、ひん死の病氣にかつたが、神は彼をあわれんで下さつた。彼ばかりではなく、わたしをもあわれんで下さつたので、わたしは悲しみに悲しみを重ねないですんだのである。^{二八}そこで、大急ぎで彼を送り返す。これで、あなたがたは彼と再び会つて喜び、わたしもまた、心配を和らげることができよう。^{二九}こういうわけだから、大いに喜んで、

主しゅにあって彼かれを迎むかえてほしい。また、こうした人々ひとびとは尊そん重ちゆうせねばならない。三 彼は、わたしに対してあなたがたが奉仕ほうしのできなかった分ぶんを補おぎなおうとして、キリストのわざのために命いのちをかけ、死ぬしぬばかりになったのである。

第三章 一 最後に、わたしの兄弟たちよ。主に

あつて喜びなさい。さきに書いたのと同じことをここで繰くりり返かへすが、それは、わたしには煩わづらわしいことではなく、あなたがたには安全あんぜんなことになる。

二 あの犬いぬどもを警戒けいけいしなさい。悪い働はたらき人ひとたちを警戒けいけいしなさい。肉にくに割かれれいの傷きずをつけている人ひとたちを警戒けいけいしな

さい。三 神かみの霊れいによって礼拝らいはいをし、キリスト・イエスを誇ほこりとし、肉にくを頼たのみとしないうたしたちこそ、割かれれいの者ものである。四 もとより、肉にくの頼たのみなら、わたしにも無なくはない。もし、だれかほかの人が肉にくを頼たのみとしていっていると言いう

なら、わたしはそれをもつと頼たのみとしている。五 わたしは八日かみ目に割かれれいを受けた者もの、イスラエルの民族みんぞくに属ぞくする者もの、ベニヤミン族ぞくの出身しゆしん、ヘブル人びとの中のヘブル人びと、律りつ法ぽうの上うへではパリサイ人びと、熱心ねつしんの点てんでは教会きうかいの迫害はくがい者もの、

律法りつぽうの義ぎについては落ち度おちどのない者ものである。七 しかし、わたしにとって益えきであったこれらのものを、キリストのゆえに損そんと思おもうようになった。八 わたしは、更に進すすんで、

わたしの主しゅキリスト・イエスを知る知識ちしきの絶大ぜつだいな価値かちのゆえに、いっさいのものを損そんと思おもっている。キリストの

ゆえに、わたしはすべてを失うしなったが、それらのものを、

ふん土どのように思おもっている。それは、わたしがキリストを得えるためであり、九 律法りつぽうによる自分じぶんの義ぎではなく、

キリストを信しんじる信仰しんこうによる義ぎ、すなわち、信仰しんこうに基もとづく神かみからの義ぎを受けて、キリストのうちに自分じぶんを見みいだす

ようになるためである。一〇 すなわち、キリストとその復活ふっかつの力ちからを知り、その苦難くなんにあずかつて、その死しのさまとひとしくなり、二 なんとかして死人しにんのうちの復活ふっかつに達たつしたのである。三 わたしがすでにそれを得えたとか、

すでに完全かんぜんな者ものになつているとか言うのではなく、ただ捕とらえようとして追おい求もとめているのである。そうするのは、

キリスト・イエスによって捕とらえられているからである。三 兄弟きやうだいたちよ。わたしはすでに捕とらえたとは思おもっていない。ただこの一事いちじを努つとめている。すなわち、後のものを忘わすれ、前まえのものに向むかつてからだを伸のばしつづ、四 目標もくひょうを目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召めして

下くださる神かみの賞与しょうよを得えようと努つとめているのである。五 だから、わたしたちの中で全まったき人ひとたちは、そのように考かんがえるべきである。しかし、あなたがたが違ちがった考かんがえを持もつて

いるなら、神かみはそのことも示しめして下くださるであらう。六 ただ、わたしたちは、達たつし得えたところに従したがって進すすむべきである。

一七 兄弟きやうだいたちよ。どうか、わたしにならう者ものとなつてほしい。また、あなたがたの模範もはんにされているわたしたちにならつて歩あるく人ひとたちに、目めをとめなさい。八 わたしが

そう言うのは、キリストの十字架に敵対して歩いている者が多いからである。わたしは、彼らのことをしばしばあなたがたに話したが、今また涙を流して語る。一九彼らの最後は滅びである。彼らの神はその腹、彼らの栄光はその恥、彼らの思いは地上のことである。ヨシかし、わたしたちの国籍は天にある。そこから、救主、主イエス・キリストのこられるのを、わたしたちは待ち望んでいる。三彼は、万物をご自身に従わせうる力の働きによって、わたしたちの卑しいからだを、ご自身の栄光のからだと同じかたちに変えて下さるであらう。

第四章 一だから、わたしの愛し慕っている兄弟たちよ。わたしの喜びであり冠である愛する者たちよ。このように、主にあって堅く立ちなさい。

二わたしはエウオデヤに勧め、またセントケに勧める。どうか、主にあって一つ思いになってほしい。三ついては、真実な協力者よ。あなたがたにお願いする。このふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、「いのちの書」に名を書きとめられているクレメンスや、その他の同労者たちと協力して、福音のためにわたしと共に戦ってくれた女たちである。

四あなたがたは、主にあっていつも喜びなさい。繰り返して言うが、喜びなさい。五あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。六何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いと

をささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。七そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであらう。

八最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてはまれあること、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。九あなたがたが、わたしから学んだこと、受けたこと、聞いたこと、見たことは、これを実行しなさい。そうすれば、平和の神が、あなたがたと共にいますであらう。

一〇さて、わたしが主にあって大いに喜んでゐるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心にかけてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。二わたしは乏しいから、こう言うのではない。わたしは、どんな境遇にあっても、足ることを学んだ。三わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている。四わたしを強くして下さるかたによつて、何事でもすることができる。五しかし、あなたがたは、よくもわたしと患難を共にしてくれた。六ピリ

ビの人たちよ。あなたがたも知っているとおり、わたし
 が福音を宣伝し始めたころ、マケドニアから出かけて
 行った時、物のやりとりをしてわたしの働きに参加した
 教会は、あなたがたのほかには全く無かった。二六またテ
 サロニケでも、一再ならず、物を送ってわたしの欠乏を
 補ってくれた。二七わたしは、贈り物を求めているのでは
 ない。わたしの求めているのは、あなたがたの勘定をふ
 やしていく果実なのである。二八わたしは、すべての物を
 受けてあり余るほどである。エパフロデトから、あなたが
 たの贈り物をいただいて、飽き足りている。それは、
 かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え

物である。一九わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいつさいの必要を、キリスト・イエスにあつて満たして下さるであらう。二〇わたしたちの父なる神に、栄光が世々限りなくあるように、アアメン。

三 キリスト・イエスにある聖徒のひとりびとりに、よろしく。わたしと一緒にいる兄弟たちから、あなたがたによろしく。三 すべての聖徒たちから、特にカイザルの家の者たちから、よろしく。

三 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

ニキリスト・イエスにある聖徒のひとりびとりに、よろしく。わたしと一緒にいる兄弟たちから、あなたがたによろしく。三すべての聖徒たちから、特にカイザルの家の者たちから、よろしく。

三 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。